

## 平成 30 年度第 1 回図書館協議会

- 1、日 時 平成 30 年 8 月 28 日 午前 10 時から正午まで
- 2、場 所 国分図書館 4 階会議室
- 3、出席委員 井之浦 一子 家庭教育活動者（公募委員）  
久保 明子 家庭教育活動者（公募委員）  
新屋 広子 学識経験者（市議会議員）  
奥山 渉 学識経験者（市議会議員）  
高銚 裕樹 学識経験者（大阪教育大学准教授）  
中平 好美 学校教育関係者（柏原小学校）  
中野 勝次 社会教育関係者（こども会育成連絡協議会）  
西澤 昭子 社会教育関係者（図書館ボランティア）
- 欠席委員 浅野 格士 社会教育関係者（社会教育委員） 所用のため欠席  
荻堂 美香 社会教育関係者（PTA 協議会） 所要のため欠席

事務局	教育部長	福島 潔
	教育部次長	石垣 好啓
	図書館長	山角 清治
	国分図書館長	増井 良年
	柏原図書館長補佐	児玉 太津夫
	柏原図書館主査	辻崎 幹博

### 4、案 件

- (1) 平成 29 年度図書館事業執行状況
- (2) 平成 30 年度主要事業
- (3) その他

### 5、議事の内容

司会／

定刻になりましたので、只今から平成 30 年度柏原市図書館協議会を開会いたします。皆様方には、本日、公私なにかとお忙しいところ当協議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

本日の司会をいたします、柏原図書館長の山角でございます。よろしく願いいたします。

まず、会議に入ります前に、本日の会議は柏原市まちづくり基本条例第 15 条により「会議の公開」が規定されておりますので、本日の協議会を公開する事といたしますのでよろしく願い申し上げます。

それでは、開会に先立ち福島教育部長から開会のあいさつを申し述べさせていただきます。

<福島部長挨拶>

司会／

<任命書の交付>

<出席委員の紹介>

<資料の確認>

それでは、議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第5条第2項に委員総数の1／2以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員10名中8名が出席されておりますので、協議会は成立しております。

それでは、はじめに本協議会の会長につきましては、昨年度の協議会で大阪教育大学の「高鍬先生」を選出させていただきましたが、副会長につきましては、学校教育関係者で堅上小学校校長の「橋本先生」を選出させていただきましたが、新たに「中平先生」に変わられたことから、引き継いで、「中平先生」にお願いいたしますこと、異議がなければ、拍手をもってご承認をお願いいたします。

(拍手)

ありがとうございました。

それでは高鍬会長からご挨拶をいただきます。

<会長挨拶>

司会／

ありがとうございました。それでは、協議会条例第5条第1項により会長が議長をつかさどる事になっておりますので、これからは高鍬会長に議事進行をお願いいたします。

議長／

それでは、次第に添って議事を進めます。

はじめに、「平成29年度の事業執行状況」を事務局から説明願います。

事務局／

平成29年度の図書館事業執行状況について報告させていただきます。

本日お配りしております「柏原市の図書館 平成29年度」に基づいて報告させていただきます。主に項目をピックアップさせていただき報告いたします。

はじめに8ページの移動図書館の巡回場所について説明します。

水曜日コースは堅上小学校、雁多尾畑、国分市場、府営芝山住宅

水曜日コースは石川町、円明、柏原病院、柏翠園、金曜日コースは高井田の歴史資料館と青山台に行かしていただきました。

続きまして 12 ページをご覧ください。館別蔵書構成比で柏原図書館一般書は 92,616 冊、児童書 43,809 冊、合計 136,425 冊でございました。国分図書館一般書は 64,603 冊、児童書は 34,510 冊、合計 99,113 冊でございました。

次の 13 ページでは、登録者状況ということで、登録者人数の推移を記載しております。平成 29 年度は、44,239 人でした。また、柏原、堅下、堅上、国分の地域別登録者人数も記載しております。実利用者人数は 9,446 人でございました。

続きまして 18 ページをご覧ください。④最近 5 年間の利用状況の推移でございます。

平成 29 年度 1 日あたりの利用者数 321 人、1 日あたりの貸出冊数 1,178 冊、開館日数 353 日、利用者人数 113,179 人、貸出冊数の内訳としまして柏原図書館 202,587 冊、国分図書館 191,685 冊、移動図書館ひまわり号 21,408 冊、貸出合計 415,680 冊でございました。

続きまして 21 ページ予約のところをご覧ください。予約受付件数を記載しております。受取館別予約件数です、平成 29 年度柏原と国分を合計しまして 24,410 件でございました。窓口と OPAC 予約受付 11,432 件、Web インターネット予約は 12,978 件でございました。

続きまして 23 ページ 9 番団体貸出といたしまして、柏原図書館と国分図書館合計で 10,619 冊、内訳としまして保育所、小学校、中学校、小学校学童保育、幼稚園図書支援指導員、小学校図書支援指導員、おはなし会、スタディアフター、その他でございます。

続きまして 24 ページをご覧ください。10 番相互貸借の内訳を記載しております。府内市立図書館小計で借り受け冊数の小計が 1,358 冊、貸出冊数が 1,061 冊となりました。府立中央図書館、国会図書館を合わせますと借り受け冊数 2,209 冊、貸出冊数 1,124 冊でございました。

27 ページをご覧ください。4 番実績の指数でございます。A 平成 28 年度末人口 69,784 人、B 実利用者数 10,002 人、C 柏原市市民の実利用者数 9,446 人、D 人口に対する実利用者数 13.54%、E 職員数 28 人、F 利用者数 113,179 人、G 柏原市民の利用者数 107,735 人、H 貸出冊数 415,680 冊、I 柏原市民の貸出冊数 384,310 冊、J 蔵書冊数 235,589 冊、K 年間受入冊数 9,931 冊、L 図書館費決算額 130,367 千円、M 図書購入費 9,002 千円、N 蔵書回転率 1.76 冊、O 開館日数 353 日、P1 日あたりの貸出冊数 1,178 冊、Q1 日あたりの利用者数 321 人、R 市民一人あたりの貸出冊数 5.51 冊、S 市民一人あたりの蔵書冊数 3.38 冊、T 市民一人あたりの年間受入れ冊数 0.14 冊、U 市民一人あたりの図書館費 129 円、市民一人あたりの図書購入費 129 円、W 有効登録者一人あたりの貸出冊数 42 冊、X 職員一人あたりの奉仕人口 2,492 人、Y 職員一人あたりの貸出冊数 14,846 冊でございます。

その他のページに関しましては、行事に関することを掲載しております、後でご覧になってください。

簡単ではございますが、私の方からの説明を終わらせていただきます。

議長／

一点だけ、28 ページの U と V が同じ数字なのですが、同じ数字になるはずがないんです。

事務局／

誤りのため、訂正させていただきます。

議長／

それでは質疑応答に入ります、平成 29 年度活動報告に関して何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

委員／

ここで聞くかどうかあれなのですが、18 ページ利用者人数の推移グラフを見ると、過去 5 年の間、少しずつ下がってきている、現状をどのように考え、対策をどのように考えるのかをお聞かせいただきたい。

事務局／

確かに利用者数の人数、貸出冊数は、年々おっしゃる通り減っています。なぜかと考えますと、いままでよく言われているように、皆さんがインターネットをお使いになって、すぐに答えを得られるようになっていきます。図書館へ行って、足を運んで、調べようとする利用者さんは少なくなってきています。ただ、インターネットは新聞でたとえば、見出しをみるようなことではないかと思っています。図書館に対して、ゆっくりとし過ぎるとお叱りを受けるかわかりませんが、いつかは、図書館に足を運び、詳しく調べる必要があることがわかる時代が来ると思っています。ここ 2,3 年で、子供に対して本を読ませないといけない、本に慣れさせないといけない、そうでないと知識を得られない、文章も書くことができなくなるということを、新聞に出で来るようになりました。そこで、図書館としては、どうしているの、もっと本を利用してもらうようにするには何をしているのかと言われると、子どもさんに対して本に慣れてもらうように、まずは子どもさんが喜ぶようなイベントをやり、図書館職員ではとてもできなくて、本当に頼りにしています、この席にもおられますボランティアさんが、ほとんど毎週のように来ていただき、ボランティアさんが赤ちゃんにも読み聞かせをやっていただいています。

すみません脱線しますが、赤ちゃんに読み聞かせをするのを初めて見れば、赤ちゃんが日本語を理解していると思うくらい、赤ちゃんが一生懸命ボランティアさんを見ています。これが、本を好きになっていくことの始まりなのかなと思っています。図書館は、ボランティアさんと一緒にやっています。図書館では、委員さん方にお知恵を借りたいと思っています。ここで、中学生や高校生に対し、インターネットではなくもっと図書館で来て調べて

ください、ということ PR したい。図書館に来る高校生はいますが、図書館にある資料を使わず、自分の持ってきた参考書だけを持って学習室で勉強をしています。もう少し、図書館の中まで入ってよと思うんですが、行ってくれません。どうやって、彼らを図書館へ引っ張り込めるのかが、今の課題です。

#### 事務局／

最近図書館離れしていますが、まずは国分図書館と柏原図書館を知っていただくために、35 ページと 36 ページに行事写真があります。お子さん連れに対して、本に関連する行事を行いました。まずは図書館に足を運んで来てもらい、図書館では SNS のフェイスブックなどや市広報で情報発信し、できるだけ図書館になじんでいただくというこの努力を続けてまいりたいと考えております。

#### 委員／

私には小学校 1 年生になる子どもがおりまして、赤ちゃんのときから図書館に通わせていただいて、この 7 年間ですごくサービスが上がっているなど、家内も実感しているところ です。特に国分図書館は、読み聞かせあり居心地がいい、私は柏原図書館を越え国分図書館へ来て、ありがたいと思うのですが、努力は評価するところでございますが、二つ利用者を増やすのに全国的に取り組んでいることがあって、一つ目は内容コンテンツを充実させていくことが必要なことなのかなと思っております。今まで議論があったと思いますが、公立図書館の図書購入費はだいたい 900 万円から 1 千万円と聞いておりますが、柏原市は 2 館で 900 万、半分の図書購入費で賄っている、一つ問題があるかなと思っております。二つ目は、国立の美術館とか科学博物館の閉館時間が 17 時までを、働き世代をもっと来てもらおうと 18 時 19 時 20 時 21 時まで延ばして入館数がものすごく増えたという事例を受けて国の方は動き出しております。武雄図書館へ市議会議員の常任委員会で視察へ行きました。閉館時間は 21 時までやっておるのです。なぜ夜 9 時までするかと言うと、働き世代が仕事を終えて、本を借りに行こうと言っても 5 時で閉まっていたら借りにいけないですね、土・日に行けばそれで済むやないかという話なんですけども、では近隣はどうなのかと言うと、八尾市なんかでも 18 時、19 時のところもありますし、今後社会的実験をしながら、閉館時間について協議をする時代に入ってきたのかという気がします。まとめますと、一つは予算の関係、もう一つは閉館時間関係でその点につきましてお考えがありましたら何かお願いします。

#### 事務局／

委員さんがおっしゃる通り、10 年くらい前からどんと減りこのままずっと 2 館で 900 万円、公立図書館の 1 館分しか確保できていない、それで何が起きているのかと申しますと、せっかく図書館に足を運んでいただいた利用者さんに対して、「いやこんな本がある

やん。」と言うのが、数少ないと感じています。新刊を買いはしていますが、予算を制限されていますから、用意できている本が半分しかできていないはず。「いやー、図書館へ行ってもあんまりないやん。そしたらもういいか」と思っておられるのかも知れませんが、ですので、財政当局に対し「もうちょっとなんとかして。」と言うことはしてはおりますが、もっと強く「頼みます。」ということをもっと強く行くべきだと考えています。時間を延ばすのは、おっしゃるとおりできればいいと思うのですが、今の体制ではまだまだシフト、ひとの配置がなかなか組めないで、これも人員の要望をして、9時くらいまで開けられるようにやっていきたいとは思っています。

委員／

予算については要求をしていきたいな、二つ目の開館時間については1時間延ばすごとに人件費、開館の維持費、空調関係、電気関係、コンピューター関係を入れると相当な予算、お金がかかるのかなと思いますので、そのあたり1時間あたりいくらかかるのか、費用を積算していただいて、社会的実験をしてどれくらい増やしていけるのか、また周りの近隣市とのサービスとの平均に併せていくことを視野に入れていただけたらなと思います。1回目の答弁の中で調べ学習、小学生や中学生にもっと来てほしいとお話がありました。で我々も、会派で小学校の図書館を回った時に、調べ学習が教育の必須になっているからということで、子供たちは来てくれてはいるんですが、学校の図書室のコンテンツ内容も予算がないから冊数も少ないということで、じゃ柏原と国分図書館はお互い連携はしていると思いますが、さらに調べ学習ができやすい環境を教育委員会と一緒に考えていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

議長／

ありがとうございます。今の件に関して、あるいはそれ以外に関してありますでしょうか。

委員／

予算のことをずっと言っておりますが、財政がなかなか動かないことも知っていますが、どういう風にしていけば財政が動くかと、しっかり研究して行ってほしいなと思います。資料の中で、登録者数はいいですが、実利用者数が少ないということは、登録されているけど1年以上行っていない、あまり行けていないということですが、図書館の魅力的にはどうなのかな、また行こうと思ってもらえるようになるにはどうでしょうか。

事務局／

確かに、柏原図書館の場合は、建物が古くて、当時なら一番よかった図書館だったと思います。今一般の方、我々の年代の方に対しては、柏原図書館は迷惑をかけているのかなと

思っています。何かと言いますと、子どもさんたちの部屋と一緒にいるので、子どもさんたちは声を出すために、邪魔になっているのかと思っています。来にくくなっているのかなと思います。ただし、子どもさんたちには、「静かにしてよ。」とは、なかなか言っておりません。よっぽどひどいときには言わせてもらいますが、子どもは、本を読んで楽しくやってくれます、一生懸命声を上げて読んでいる子もいます。その子たちには、そっとしてあります。一般の方には、耳障りなところがあるのかなと思います。大人の方がいらしても「うわ、面白い本セットしてくれてるやん。」と言うのがなく、予算関係に続いていくんですが、そうすることがなかなかない中、図書司書が一生懸命限るのあるなかで選んでくれています、他の図書館に比べたら冊数、新しいおもしろいというものが少ないのが大きな原因だなと思っています。

#### 委員／

耳の痛い話ばかりだと思いますが、せっかくの財産ですし、有効にいろんな方に利用をしていただきたいと常々思っています。今年度は新しい取り組みをやると聞いておりますので期待したいと思っています。引き続きよろしく申し上げます。

以前、開館時間のこと、延長できないのかと問いましたが、あまり延長の効果がないというデータがあるとおっしゃいましたが、時代も変わっていますのでもう一度調べていただきたいと思います。

#### 事務局／

先ほどいただいた意見の中で、近くに八尾市さんがあります、隣の市でやっているのにとあると思います。そのあたりを調べたいと思います。報告させていただきます。

#### 議長／

他なにかありませんか

大丈夫でしょうか、私から意見を言わせていただきます。

開館時間の延長に関しては、あまり積極的に評価しない方なのです。と言うのは、多くの図書館へ行って見たことはあるのです。たいてい夜の利用はガラガラなのです。人がいないのですよ。駅のそばの図書館は、頻繁に人が行ったり来たりしていますが、駅のそばでないところの図書館は、たいてい表現が失礼なのですが、おじいちゃんがじっと座ってらっしゃるといことの方が多いです。ある種当たり前で、夜になるとご飯をたべにお家へ帰るわけで、お家へ帰ると出てこないの、ご飯を食べてからもう一度図書館へ行こうかという人は、たぶんあまりいません。だから、夜に開館しても、それほど効果はない。全くないわけではないのですが、ただ費用対効果としては低いというのが現状であろうと思います。立地によって、開館延長をする意味はあるのですが、大抵はそうではない。今ある国分図書館、あるいは柏原図書館でやってみてどうかとは考える必要があると思います。

たとえば8時まで延長してみて、ひと月とかやってみて、実際どれくらいの人が来館するのか、やってみてもいいとは思いますが、わかりませんが、個人的な予想としては、あまり成功はしないのではないかなと思います。かかる費用に比べて、利用者の増加は見られないのではないかと僕としては予想します。なので、開館時間の延長が、抜本的な対策になるとはちょっと思わない。でその上で、基本のサービス、通常のサービスを申しあげましたけれども、資料購入費が通常の2分の1しかないということが、大きなネックで、年間受入れ冊数を見ると9,931冊、ざっと1万冊ですね。蔵書冊数が235,000冊ですから、だいたい20分の1くらいしか新しくなっていないということになるわけです。ちょっと少ないですね。つまり、図書館1年間に来てみても95%同じ本があるということです。ある年に図書館へ行ってざーと見て、こんな本があるねって見て、改めて次の年になって図書館に行ったら95%同じ本がある、ということだったら、それはやめておこうかという気分になっても不思議ではない。古い話ですが、1992年文部科学省が基準を出しているのはご存知かと思います。文部科学省の生涯教育局だったかな、出されたもので、文部科学大臣が出したものではありませんが、蔵書数の2割を更新できる資料費を持つことが望ましいと言っています。これが図書館の望ましい基準です。文部科学省が数値基準を出すことはめずらしいことなのですが、もちろん望ましいということであって、そうでなければならぬと言っているわけではないです。2割というところから考えると、5%に満たない現状は、ものすごく低いものと考えていい。現状そういうところにあるということは、十分に確認の上、予算の要求をしていただければと思うところです。とは言うものの、これは前から何度も申しあげていることですが、利用そのものに関しては2分の1の資料費しかないのに対して、市民一人の貸出数が5.5冊ですから、だいたい標準くらい、全国的な平均にほぼ相当します。つまり、柏原市の人はよく本を読むということです。図書館が半分くらいしか提供していないのに、全国平均くらい読んでいる、たぶんもっと資料を提供すれば、もっと利用されるはず、ごく単純な話で、その意味で基礎的なサービスの充実をやはり充分にはできていないのではないかと、前々から申しあげていることなのです。ある意味で、効率はいい、少ないお金でもって、そこそこのサービスを提供している。そこで留まってほしくはない。民間企業だったらありだと思ふ、安い費用でもって、平均的なサービスを提供するというのは、たぶんいい企業です。ただ公のサービスというのは、そうでは困る。人々がより資料を利用したいと思っているのに、その人々のニーズを充分には満たしていない、それで平均程度収まっているというサービスは、それで満足していいというものではないはず。それで、基礎的なサービスの充実には是非しっかりしてもらいたい。



委員／

予算が2館900万であって、予算を使う本の購入の比率、一般書、児童書、一般書でもいろいろありますけど、要求の高いものを買われていると思うのですが、購入される選定はどういうふうに行われているかなど。

事務局／

利用者のよく読まれる小説に力が入って、調べ学習の資料を入れ替えたいのですが、あまり資料費が回っていないことが本当です。子どもさんが来て調べたりするのに、資料を更新しなければいけないのに、昭和のものが残っているものが中にはあります。本来ならおかしいです。

委員／

私たちも、柏原でなかったら他館から取り寄せてくれるので、それは助かっているのです。今聞けば、すぐに調べ学習をしたいとか、期間がなかったら、短い期間しかなかったら、どうしようかなってあります。

事務局／

今、委員さんからの意見で、我々をかばう発言をいただきありがとうございます。他館から借りるというのは、確かにあるのですが、そこで引かかるのは、足を運んでもらって、実際に目で見て、「うわー、こんな本があったやんか」という、出会い、本との出会いというのをもっと体験してもらいたいと思います。予算をちゃんと獲得せよとのこと、繋がっていくのですが、他館から借りられるということは、ご存じなのですが、知っていても、いやそこまでやっていただかなくていいですよ、とおっしゃっていただける利用者さんが何人かいらっしゃいます。その辺りが残念に思われます。やはり、ちゃんと本を購入し、目につくようなところに置いておかないといけないと思います。

議長／

いろいろな意見が出ましたのですが、少しだけ、発言をしておきますと、調べ学習の資料は古いものは、結構まずいと思われれます。と言うのは、学習する内容は結構アップデートされています。今、鎌倉幕府の成立は、1192年でないはずですが。間違っただけを図書館の資料で、子どもたちが学んで帰ってしまう。これはかなりまずいので、学校図書館も同じで、古い資料からのアップデートは急務だと思います。特に子供が調べ学習に使う資料に関しては、もちろん、それ以外の資料に関しても、当然アップデートが必要なのですが、ただ、調べ学習を進めていけるということの大きな前提は、図書館にある資料は、前提は中身が正しいといけません。でも、その正しいかどうかというと、古い資料はかなりあやしい、現在においては、本に昔書いてあったからと言って、それがずっと正

しいとは限らない。だから、そういうものをいつまでも置いておくのは、かなり危険と思います。置いてあるものを、その本がありますかと聞かれたら、一緒に探しに行って、こういう本があります、しかしこれは古いからやめておきましょうね、と言えるけど、自分で見に行って、子供が手に取ってみて、こんなのと間違っただけを覚えてたら、これは困るわけです。なので、調べ学習用の資料のアップデートというものは、もしそれが昭和のものであるというものだったら、かなり急務だと思っていただきたい。

他何か、ございますでしょうか？

今回、柏原図書館統計資料に言及されておりませんが。

事務局／

こちらの方を説明させていただきます。まず1ページ目から説明させていただきます。

1 柏原市立図書館の、図書購入費ですけれども、平成10年から記載させていただいております。毎年だいたい1千万から9百万前後で推移していますが、平成16年度国分図書館の開館により、2館体制になりましたが、1千万から9百万で推移しています。市の財政事情も厳しいということで、なかなか増額を認めてもらえないということが実情でございます。2館でしたら、倍になってもおかしくない、実際半分に使用費がなっているような状態になっております。そして②の柏原市の人口の推移ですけれども、全体で95.1%まで人口が落ち込んでおります。それを踏まえまして次の③ですけれども、2ページ目の③に移らせていただきまして、実利用者人数の推移です。先ほど申し上げました実利用者的人数ですが、7年前と比較していますが、実利用者数は83%に減少しておりまして、柏原市の人口の減少率95.1%よりも、ちょっと減っていますので、人口以上に利用者の方が実質減っています。12%くらい落ち込んでいます。次の3ページ④年齢別利用率の推移です。実利用者人数を柏原市の人口で割ったものになります。7年の比較ですが、19歳から39歳の世代の利用率が減少しているの、おわかりかと思えます。12歳までのお子さんが、1.5%上昇しているのが見てとれます。小学生の方までは来られていますが、13歳から39歳があまり図書館へ来られていないのが目立ちます。⑤で年齢別利用者数の7年間の推移です。19歳から39歳世代の読者数が減少してしまっていて、やはりここも19歳から29歳のところが58%まで落ち込んでおりまして、4割強落ち込んでいるすごく減っている状態です。高齢者の方と子どもさんだけが伸びている状況にあります。これは人口を考慮していないので、高齢化が進んでおりますので、70歳以上の方が150%伸びていますが、実際それほどでもないかなと思っております。次の、4ページに移りまして、年齢別利用者数と人口ということで一年間に本の読まれる本の冊数を割ったものですが、小学生の方が7歳から12歳、多くて1年間に22冊29年度ですけれども読まれていて、7年前と比べると142%の増減率になっています。0歳から6歳は伸びているのですが、自分で来られることはないので、お母さん方が一緒に来て利用されているのかなと思っております。その中で、19歳から29歳の方が、どうしても人口に対しても35%ほど減っている、すごく目立っています。次、

⑦利用者人数推移なのですけれども、こちらの統計は、申し訳ないのですけれども、人数が八尾と東大阪の人数がどうしてもシステム上取れないので、今回は入っておりますのは参考程度に見ていただきたいと思います。全体で98%なので7年前と比べて2%ほど減っております。2%だけなのですけれども、やはり19歳から29歳は、58%なので4割くらい、30歳から39歳の人、やはり67%で3割くらい減っております。その中で、高齢者だけが、よく来られる、年齢とともに足を運ばれる回数が多くなっております。5ページの⑧ですけれども、利用者人数と人口ですが、1年間に図書館に来られる回数になります。人口でやっておりますので、単純に平均です。小学生が一番多くて、1年間に4.3回です。それ以外は2回も来られていない状況です。高齢者の方がよく来られているように、図書館で感じておるのですが、実際には小学生、あまり平日も来られないと思うのですけれども、土・日くらいですけれども、よく来られていることが読み取れるかと思っております。その次⑨です。利用冊数を実利用者数で割ったものですが、図書館にこられている方が、何冊読まれているかというもののなのですが、昔に比べて増減率を見ますと100%をほぼ全部超えています。これからみると図書館に、今までから来られている方は、7年前に比べて今まで以上に本を読まれていることがわかると思います。逆に言えば、利用者人数全体が減っているので、来られる方と来られない方の差が極端に出ていると思われまます。

以上で、柏原図書館統計資料の報告を終わらせていただきます。

議長／

ありがとうございました。つまりは、統計のデーターから分析をいろいろやっていただいたということだと思います。柏原図書館統計資料あるいは、柏原市の活動報告で改めまして、何か質問あるいは、ご意見等ありますでしょうか。

ひとつだけ言わせていただきますと、こんな感じだとすると、児玉館長補佐が指摘していただいた、19歳から39歳のあたりが激減していると、そこに焦点を当てる、利用者を伸ばす、あるいは、利用の減少を止めると考えると、ここに焦点を当てる必要があるのではないかと思います。そういう意味で子供に対することでのいうのは、10年後には役に立つかもしれない。今10歳の子が、10年経つと20歳ですから、10年後には役に立つかもしれない。今利用を増やすことには、直接繋がらない。そうではなくて、19歳から39歳、いわゆる働き盛り世代でいいと思うのですけれども、ここに対しての何か取り組みが必要になるかと思います。具体的な方策に関して、僕が何か持っているわけではないのですが、この数字を見る限りでは、手当てをするべきは、働いているお父さん、お母さん、独身も含め40歳までの、働いている人というところに対して、なんらかの手当てをする必要があるのかなと思います。ちょっと疑問だったのは、⑥年齢別利用者数で子供の利用は増えている、でも19歳から39歳あたりの利用はむしろ減っている、子供はたいてい一緒に親と来ると思うので、19歳から39歳人たちは相当数図書館へは来ているのではないかと、子供と一緒に。でも利用しないということなのかな。と、この数字を見て思いました。なぜ、そう

なるのかわからないのです。子供のカードで自分の本を借りてしまうとか、いろんなことが考えられるでしょうけど、なにかおもしろい原因がありそうかなと思うところです。

うちの孫でもそうなのですが、お母さんが図書館へ連れてきて子供だけを置いて買い物に行くのです。買い物が終わって迎えに行くのです。19歳から39歳は単身者が多いから、一般会社では、異動が一番多いときです、それで利用する人も少なくなっていると思います。これの対策を練ると言っても、一般社会の状況から見て無理だと思います。

委員／

日曜日に、たまたま本を選ぼうとやって来ると、幼稚園に行っているか行っていないかの子供さんとお父さんが来て、子供さんに本を読んであげている姿を何回か見ます。お父さんは、自分の本を選びに行くから待っていてねという光景も見ますが、19歳とか中学、高校生は無理ですけど、若いお父さんは子供さんを連れて図書館へ来るのをよく見かけます、ブックスタートでも、赤ちゃんが一生懸命聞いてくれる姿を見て、保護者の図書館へ連れて行こうという意識がなかったら、せつかく私たちが読み聞かせをして食いついてきていただいているのに、後の親御さんのフォローがどんなふうにと、図書館利用の仕方がすごくせつかくのことなのです。

委員／

イベントがあれば来ていただけるけど、本だけ見ておけではしんどいと思います。

大阪にいるおとうさんはいいのですが、異動されている方は、わざわざ図書館のために帰ってくるわけにいきません。

委員／

若いお父さんから、40歳くらいまで来てもらえたらと思うのですけれども。

中学、高校生に関しましては、なんとも

委員／

高校生、大学になってきたら学校の図書館で足りるところもあります。

小学生でしたら、学校の図書館よりこちらの図書館のほうが多いという子のほうが多い。

晩遅くまでやっていただく、7時、8時ころまでやっていただいたら、親は会社帰ってきて、子供を連れて行こうかという人もいます。現に孫でも、おじいちゃん連れて行くと、6時回っているところに言われても、図書館閉まっている、それなら休みの日にしようかと連れてくる時があります。実際に晩遅くまでやって、効果があるかと言うのは、図書館へ行きたい人に対して無視した言い方、図書館を利用したいのに会社帰りに寄ろうと思っても寄られない、晩6時で閉まっていたら、毎日でなく週に何日かは、晩7時8時までやって

もらえば、会社帰りでも寄られると思うのです。本庁でも晩遅くまで仕事をやっているでしょう、それと同じようにできないことはないと思うのです。本当に図書館を利用したい人を考えて、人数はなんぼ入ろうが入らないは関係ないと思う、本当に図書館を利用してもらいたい人に考えていただきたいと思います。

議長／

他何かございますか。

委員／

小学生の利用が増えているということ。非常にうれしいなと思いましたが、市の施策で学校司書の配置をすべての学校ではないのですが、柏原小学校は中学校区で学校司書の方がいらっしゃいますので、非常に子たちに本を読む楽しさとか、環境構成を非常に丁寧にしていただいています。そういったところで、興味が持てるのかと思います。それから、柏原市立図書館の連携の中で、いろんな紹介文などでいろんな取り組み効果が出ているのかなと思いました。中学校はどんな実態があるのかわからないですが、中学校はクラブ活動があり、放課後に利用というのは難しいと思います。なぜ中学生が図書館の利用が少ないのかというのは、実態把握されておられるのであれば、そこから打開策があると思いますけれど、まだそこが十分されてなければ、またそのあたりが大切かなと思われま。団体別貸出し内訳 23 ページで見ましても、小学校は網羅していますが、中学校は2団体ということで、貸出しがないのかなと思いますので、このあたりの実情把握を是非お願いしたいです。

事務局／

中学校の生徒さんたちは、どう思っているのかというのを聞いたことがないので、一度やるべきだなと思います。是非、力をお借りしてやりたいと思います。

委員／

おそらく小学校高学年、中学校は塾へ行くでしょう。塾の先生に聞いたら早い場合もあります。自分の目で調べるという子が少なくなりましたね。

議長／

他何かございますか。

事務局／

ボランティアで活動されている方にお聞きしたいのですが、4ヶ月検診時に来ていただいているが、お父さんが来られる方は多くなりましたか。

委員／

たまにお父さんが来てくださって、お父さんだけではなくお母さんと一緒に来ていただいています。一回に一組か二組は来てくださっています。平日ですので、お仕事で来られない方は多いと思うのですけれども、初めてのお子さんなのか、無理されているのか、お休みを変更されているのか、わかりませんが、一組か二組は来られています。

事務局／

お話会のときに、読み聞かせがあるのです。お話会は、お父さんの参加は昔より増えてきている感じですか

委員／

来てくれていることもあります、極端に増えたわけではないです。

事務局／

小学生を抱えているお父さんは30代くらいか40代前半くらいかな、昔よりも子育てを力入れておられ、昔と時代変わりましたから、子どもさんと一緒にお休みのときも来て、読み聞かせを一緒に参加していただいているお父さんを見ると、いらっしゃってくださっていると感謝しております。

赤ちゃんと体操を一緒にやられているのを見て、時代は変わったのだと見させていただきました。

委員／

保護者の方と一緒にやろうという気持ちがなかったら、子どもさんが食いついてくれていても、お母さんがブックスタートの後、図書館行って本を借りよねとなければ、何人くらいの方が図書館の利用をされているかわからないのです。中には、もう結構ですとおっしゃるお母さんがいらっしゃいます。時間的な問題もあつてか、結構ですと言われたのはびっくりしました。はじめての子どもさんだったのか、3人目とか知っているから結構だと言われたのか、よくわかりません。でも、子どもにとっては初めての経験だから、お母さんは2回目、3回目であっても子どもさんのために、話を聞いていただきかったなと思いました。図書館へ行く足がかりは、親御さんの考え方ひとつかなと思います。お父さんが来てくれて、図書館のことを説明したら、来てくれたことがありましたので、声かけしていくということは、大事なことだなということは感じています。

事務局／

ありがとうございました。来ていただいた方に、図書館ではあんまりしゃべってはいけないとイメージを持っていましたが、声かけをさしてもらっています。自分だけかもしれ

ませんが、ひとつのことをやっていけば、それしかできないのです。たとえば、子どもさんと図書館来られても、子どもの本しかかりないのです。自分の分も、お父さん借りられますよ、雑誌でしたらプラス2冊借りることができますよと、声かけさしてもらいます。それやったら、見てきますとおっしゃっていただけます。男性はひとつのことを思ったら、考えられないのかなという経験がありました。今聞かせていただいたのは、30代40代の男性の方が、図書館で子育てに参加され、またお父さんたちも自分の時間を作っていただければいいなと思っています。

議長／

他になにかございますか

なければ、平成30年度の主要事業計画に移ります。

事務局からよろしく申し上げます。

事務局／

下半期に何をするのかということなのですが、大きなところで柏原図書館では夏祭りを子どもさん向けにさせていただきました。後は例年通り、ボランティアさんの力を借りてお話会や紙芝居をやっていく予定です。9月2日に柏原図書館では、年2回やっていますリサイクル市、柏原図書館では置けない除籍する本を持って帰っていただく行事を行います。

国分図書館では、大きなものでは10月28日の図書館マルシェを開催し、かなりの数のお客さんを見込んでいます。500人くらいです。おとし図書館の前の空き地でお店などを出していましたが、去年から図書館の4階でお店出すように変えました。4階へ来ていただいて、3階、2階へ降りて本を見ていただける導線を考えてやっております。イベントについては以上ですが、平成30年度で図書館が、何を力入れていきたいのかです。まず第1番目は、図書館と学校の連携を一步ずつ進めていっています。去年は、平成28年度は図書館司書と学校司書との会議を持ちました。とりあえず、お互い問題点を出そうということのお話し合いを持ちました。やはり、学校司書は、理想を言えば一つの学校に一人ずつ、絶対に必要だという話になりました。それは、急にはできませんので、まずできることはといえば、次回会議は教育委員会指導課と図書館ボランティアさんも一緒になって会議を持ちましょうということになり、平成30年度では会議を開きました。いろいろな意見が出ました。きつい意見もいただき、柏原市は他の進んでいるところと比べたら30年以上は遅れているとご指摘をいただきました。平成30年度は、もう一度会議を開こうと考えております。そこで、何か具体的にやれることを決めていこうと考えています。学校司書さんと連絡を密にし、何が起きているのかと申しますと、小学校、中学校から図書館に対しては、以前はすごくハードルが高かったが、こんなことをお願いできるのかという言葉が学校からいただきました。図書館から、できることはこんなことがありますよと、まとめた冊子をつくり学校に配り、ブックトーク1年に2回くらいしか

依頼はなかったのですが、半年で5回くらいは実施しています。図書館司書は、準備で大変なのですが、うれしい悲鳴を上げています。金曜日にブックトークをやりますと、土曜日は、学校がお休みなので子どもさんが図書館のシャッター前でオープンを待っていてくれます。このような現象はいままで見たことはなかったのです。ブックトークは、子どもにワクワクさせ影響を与えています。図書館システムを変えることになりました。新しくコンピューターのできる仕事は、「MY本棚」と言いまして、個人がどんな本を読んでいたのか、自分で手帳に記録されている人は別ですがわからなかったのです。図書館に尋ねられても、借りられたデータが図書館には削除さればため教えられないのです。ご本人さんのデータを残してもいいという了解のもとなら、自分の読んだ本をわかるシステムができました。スマートフォンやコンピューター見ることができます。これらの操作をできる方はいいのですが、操作のできないコンピューターを持っていないしスマートフォンも持っていない方は、手作りの読書手帳をお配りしようと考えています。どのようなかわからなかったので、夏休みに入る前に国分東小学校全部と国分小学校のある学年に、学校司書さんに頼みましたところ、快く引き受けていただき、今試しに使っていただいています。学校司書さんがおっしゃるには、読書手帳を児童に見せたところ、ほとんどの児童が手を上げたということでした。50冊読まないといけないと説明すると、やってみると言ってくれたそうです。

#### 事務局／

一つ目の学校司書との平成29年度から始めています連携をやっています。平成29年度は、図書館としてこんなことが協力できると示した冊子を各学校に配りました。学校がそれを見ていただいて、学校と図書館が会議を持ち、どういうふうな形で子どもたちに読書力を伸ばす力のか試作的に行っています。その中で、教育委員会の指導課も入りながら予算取り、図書館は蔵書を増やすことを今後努めていきたいと考えています。

二つ目のシステムのほうですが、八尾市でしたら電子で通帳がありまして、簡単に記録ができものがありますが、柏原市は非常に費用がかかるということで、教育委員会は図書館になんとかならないかと依頼していましたが、今回手作り感がでてこれは、これでいいのかなと思いますので、このような形のものを作りましたのでよろしくお願ひします。

#### 事務局／

読書手帳の紙は、市役所の各課を回り余ったものを譲り受けたため、色に統一性がありません。印刷も、我々がやっているのでもうまくはできあがっていません。

#### 議長／

下半期分の重点取り組みとして、学校との図書館の協力、図書館システムの入れ替えについて報告でありました。



一言だけ、図書館の利用記録が消えてきたのは、積極的に消してきたのであって、消えてしまうものではありません。利用者が、何を讀んだかと他の人に漏れないようにするために、図書館は、カードで貸し出し管理していた時代から利用記録を積極的に消してきたのです。消えることが悪いことのように言われると、これは図書館の自由と言いますが、図書館で利用者の秘密を守るものとしては看過できない。いまの発言はよろしくなかったと申し上げて起きます。図書館で資料の何を借りたのか、消えてきたのではない。図書館として積極的に消してきたことを確認しておいてください。

平成30年度の事業報告について何かございますか。

委員／

図書館システムが変わるということでお聞きはしていきまし。今は、ネットの時代ですので、これを利用して中学生・高校生の方々がより本に近づけていけたらいいなと思っているのです。具体的なPRはどのようなふうにしていくのか。

事務局／

まずは、広報誌の中で「MY本棚」を掲載しますがスペースの問題があり、この機能や使い方についてとなるとホームページに載せ、あとは来館いただいて資料をお渡しすると考えています。

図書館としては、システムが変わるので詳しくは図書館へお問い合わせくださいとし、お知らせはさせていただきます。

委員／

この手作りの読書手帳は、国分東小学校さんと一緒に作られたということですが、他の学校とはどうですか。

事務局／

国分小学校では全部の学年ではなく、夏休み前には作成が間に合わず、二つの学年に配りました。2学期からはすべての学年にわたるように、すでに準備はできています。

なぜ国分小学校と国分東小学校ができたのかというと、学校司書の協力を得ることができたため、まずはこの2校でやってみようということになりました。柏原小学校と柏原東小学校には学校司書がいます。すでに、読書手帳に近いものがあったので、いまのところお渡ししていません。

委員／

10校あるなかで、他がどうなっているのかと思いました。あと、ネット環境のない方については、何かありますか。

事務局／

この読書手帳と同じものを、図書館に用意します。

学校に関しましては、今は2校ですが、学校司書と図書館司書との話し合いのなかで、議題を出してこういう形がいいと各学校にあるように努めていきます。

そうなれば、冊数が必要となるので予算が要求しやすいと考えます。

議長／

他に何かございますか。

事務局/

一般には10,000千円程度の購入予算があるなか、柏原市は二つでという話があり、開館時間についても再検討すべきではないか、蔵書の2割を毎年更新していくと、いろいろ意見をいただきました。

すべて解決できたらいいのですが、資料から13歳から29歳までの利用者がものすごく少ないですね。インターネットの普及によるものと思われませんが、12歳までならすごく利用されているながら、13歳からは急激に減っている、あと50年したらこのままの数字となると思ってしまうのです。

そんな現実がありながら、いろんなことをこれから考えていかなければならないと思っています。

図書館ではイベントやいろいろやっていますが、小さいころから図書館を利用する、基礎的な部分を作り上げていくことが重要なことだと考えています。引き続きお願いしたい、それと学校との連携は、非常にこれから大事であると思います。

インターネットがあまりにも普及してくると、どうしても情報については、図書の購入が追いつかない、そのような事態を今後は考えられますので、コンテンツを充実していかなければならない。若い人たちにとってはネットがいい、小さいお子さん、高齢者の方のネットには精通されていない方には、紙ベースが一番よいと、いろんなことを考えて、情報ばかりではなく小説や若い世代の感性に合うような本を充実させるとか、周りの図書館と比べて、この部分は負けていないということを考えていかなければならない。

これからは、ネットに負けてしまうと重みますので、ご意見をたくさんいただきましたけど、予算要求を精一杯し、また新しい事業を考え教育委員会と図書館が連携を取ってやっていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

議長／

必要なものは、エビデンスに基づいた政策だと思います。いろんなことに関して、たとえば、開館時間を延ばしたらどうなるのかとか、あるいは、本当にインターネットの発達のために13歳から29歳の利用が減っているのか、インターネットのない時代の利用統計

を見れば、その時代の利用が少ないのか多いのかわかるわけです。その意味でエビデンスを確認するのは難しくないわけです。なんとなくの想いで、政策を実行するのではなく、ある程度の確実な証拠を持って、こういうことがあるからこういうことをやってみましょうか、というエビデンスを基にした政策実行というものを必要だと思うところです。一転だけ申し上げますと、システムの入替で、My本棚に関しては、それが望ましいと考える方が、結構な割合にいるとは思いますが、一方で、それが不愉快だと思う人が、ある程度割合にいるはずなのです。アラン・ウェスティンという人が調査しましたが、プライバシー研究の大家です、だいたい人口の4分の1は、プライバシーアンコンサーンド自分のプライバシーをあまり気にしないという方で、半分は、プライバシープラグマティストあんまり気持ちよくないのですけど、メリットがあるのなら容認する、残り4分の1はプライバシーファンダメンタリスト自分のメリットがあろうが、自分のプライバシーを開示するのはいやだという人たちだというのが調査でわかっています。マイコンダーサービスというのは、ある種自分のプライバシーを、外に出しかねないもの、もちろんきっちり暗号化し、職員も見られないようにするという、公開されることがないはずなのですけれども、ただ、プライバシーが、公開されるかもしれないという恐怖を抱きかねない。借りた本の情報が残っていると、自分の読んだ本の情報も残るのではないかなというのは、発想としては素直ですから。ファンダメンタリストの人たちは、図書館を使うのをやめてしまう。後、なんらかのサービスを実行することによって、ある種の人にとってはサービス強化になりますけれども、ある種の人にとってはサービスの交代になる可能性があるとして、常に確認する必要がある。公のサービスは、どこに焦点を置くべきかを、一方で考えていかなければならない。民間のサービスであれば、この部分をと焦点を置く、たとえば30代女性に焦点を区切って、そこだけに対して資源を投入するのはありだと思います。でも、公のサービスというのは、常にその地域すべての人に対して平等にサービスを提供できなければいけないはずだと思います。

そういう中で、プライバシーに関して懸念を持つ人たちが、図書館を使えなくなるようなことがあってはならない。その意味で、My本棚サービスは、悪くはないと思うのですけれども、オプトインですよ、自分でやるよと言わなかったら、貸出しの記録は残らないという方と、残した情報については、自分しか見られない。職員であっても、それはできないのだということを、しっかり広報で伝えていく必要があると思います。

登録の仕方です、たとえば窓口に来て、こういう登録をしたいとおっしゃったら、そういう説明もできますけれども、Web上でもしそれを登録できるとなると、そういう説明はできませんから、どういうふうに図書館が利用者の利用記録を秘密にするということをおわかってもらうかを、しっかり登録する人あるいは登録しない人でもそのサービスについて興味を持つ人、やってみたい人とやらなければならない人とはどちらもそのサービスに興味をもっていますから、興味を持っていない人はそんなことどうでもいいわという人であるので、興味を持つ人に対して、図書館のやっていることに対してこうですと、決してプライバシ

一が外に出ることはありませんということが、わかるような形でお知らせをする必要があるかと思います。私が、システムと My 本棚に関して申し上げたいことは以上です。

議長／

他の方々の、何かもう一言、どうしても言っておきたいことはございますでしょうか

委員／

沿革を見ていますと、1978年に図書館の開館となっているのですが、今年40年となります、10年後にはちょうど50周年となります。40周年では無理にしても50周年に向けて何か、みんなのできたらいいなと思いますけれども、予算もありますでしょうかからいなかででしょうか。

事務局/

ありがとうございます、40周年にあたって、ゆび人形劇団の講演の予算要求をしたものの認められなかったですが、50周年には資料を残しておき託します。

委員／

予算が無いのなら、無いなりにできれば楽しいかなと思います。

事務局/

いずれにせよ、節目節目に教育委員会からも図書館に協力をしていきたいと思います。皆様の、ご協力を得ながらという形でもよろしくをお願いします。

議長／

他なにかございますでしょうか

委員／

なし

議長／

それでは、ないようでしたら、今日はこれで議事を閉じたいと思います。

皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。

それでは、事務局にお返しします。

事務局/

高鍬会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてあり

ありがとうございました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後とも職員一同「市民が利用しやすい図書館を構築していく所存」でありますので引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。